

# 原点回帰

～色々悩むことだらけ、何なん！？～

2024 なんとうかい カンファレンス

NPO法人 支援機器普及促進協会

理事長 高松 崇

*Self-introduction*

# 主な活動と経歴

## ●本年度

京都市教育委員会 総合育成支援課 ICT専門主事

京都府 特別支援教育京都府専門家チーム（宇治支援学校SSC）外部専門家

京都府立向日が丘支援学校 相談支援センター アドバイザー

滋賀県教育委員会 特別支援教育ICT活用PJ トータルアドバイザー

NPO法人 支援機器普及促進協会 理事長

(株)アットスクール ICTスーパーバイザー

放課後ディサービス・フリースクール アドバイザー



## ●昨年度以前

京都市 呉竹総合支援学校・東総合支援学校 特別非常勤講師

京都市 携帯電話市民インストラクター

京都市 ICT活用支援員（総合支援学校ICTコーディネーター）

京都市 総合育成支援員（発達障害児支援）

京都市 精神障害者授産施設 京都市朱雀工房 統括職業生活支援員

京都市 地域若者サポーター（引きこもり支援）

京都府教育委員会 社会教育委員

京都府高等技術専門校 在職者訓練インストラクター

中小企業基盤整備機構 経営改善アドバイザー



# 私も、通所生活介護施設に通う三男がおります

## 18テトラソミーの子の成長

140,000人に一人という非常に出生率の低い染色体異常

（18番染色体が4本ある障害です）の我が子と同じ障害を持つ方々との情報交換の場になってほしいと思いつくりました

📄 ブログトップ

📄 記事一覧

📷 画像一覧

🎥 動画一覧

このブログを検索する



powered by

Shinzi Katoh

次ページ



プロフィール



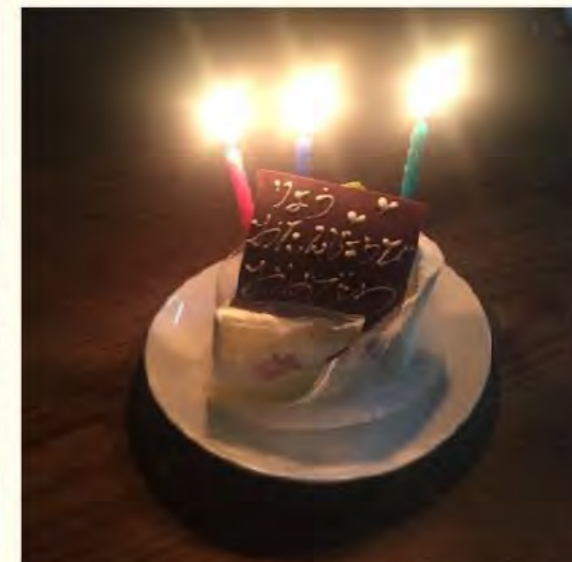
18番テトラソミー

プロフィール ピグの部屋

+フォロー



瞭くん、成人式に参加しました



瞭君 13歳のHappy Birthday!!

AD



なんとカンファレンス  
(会場：奈良学園大学)

東海特別支援教育カンファレンス  
(会場：三重県立くわな特別支援学校)

テーマ

# 「原点回帰」

■ 10時～

オープニング

両実行委員長トークバトル

■ 11時05分～



小川 修史 氏

おがわ ひさし

兵庫教育大学教授

奈良会場にて

奈良学園大学  
キャンパス見学ツアー

■ 13時10分～

おがっち & 高松 氏

対談「オールナイトフライコップ」

■ 14時40分～

なんと 屋台タイム

カ

ワークショップ

おめめどう、NUO他(予定)

# なんと

# カンファレンス うかがい

■ 10時10分～



高松 崇 氏

たかまつ たかし

ATDS代表

三重会場にて

スイッチ教材製作会  
書籍展示等(予定)

■ 15時10分～



石井 幸仁 氏

いしい ゆきひと

三重PECS代表

# 2025 2/8

## 10:00～16:40

オンライン  
& 現地同時開催

第12回東海特別支援教育カンファレンスと、なんとカンファレンスの共同開催です。奈良会場と東海会場をオンラインでつなぎ、様々な方たちと特別支援教育について改めて考え、自分が大切にしていること・軸について見つめていきたいと思えます。

最新情報はこちら

FACEBOOK



なんと  
カ

主催：東海特別支援教育カンファレンス実行委員会 共同開催：なんとカンファレンス実行委員会

後援：中日新聞社 中日新聞社会事業団

# Societyの進化と教育の変化

# 卒業後の自立をイメージして指導計画を作成する

## 農耕民族

プラス（+）の文化  
Startからの積上げ



Goalは神頼み

## 狩猟民族

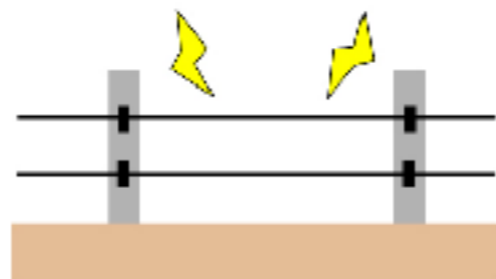
マイナス（-）の文化  
Goalからの逆算



Goalは自己責任（必達）



# 学びたいを前後に調整する工夫



食べごろ



学びごろ

教育も変化・進化・時代適応が求められています

トヨタのカイゼン活動って教育現場にもぴったり！

- 3Mの削減
- 5S活動の促進
- ボトムアップ式で現場主体

## 3Mの削減

3Mとはムリ・ムダ・ムラのことを指します。まずはそれぞれの概念を説明します。

ムリとは能力以上のことをして、負担が大きくなることです。

ムダとは、付加価値を生まない作業のことを言います。有名なものにはトヨタが提唱した「7つのムダ」があります。

ムラとは、仕事の品質が一定ではないという状態のことです。たとえば、仕事量や材料・完成品の品質、作業手順などが一定でないことを指します。

## 5 S活動の促進

5 Sはカイゼンと同じく、日本の製造業から生まれた概念です。5Sとは「整理Sorting」「整頓Setting-in-Order」「清掃Shining」「清潔Standardizing」「躰Sustaining the Discipline」の5つの頭文字を表します。それぞれの定義は下記のようにまとめています。仕事の効率化を追求するカイゼン活動において、5 S活動の促進は重要な一環です。

- 整理...必要なモノと不要モノとを分けて、不要なモノを処分すること
- 整頓...必要なモノを誰でもすぐに取り出せるようにすること
- 清掃...ゴミ・チリ・ホコリや汚れのないピカピカな状態を維持する活動
- 清潔...整理・整頓・清掃の3Sの活動を標準化し維持できている状態
- 躰.....整理・整頓・清掃の3Sの活動が習慣化し、全員がしっかりルールが当たり前に守られている状態

## ボトムアップ式で現場主体

業務改善は大きく2つの方法に分けられます。それは「トップダウン式」と「ボトムアップ式」です。

トップダウン式とは、経営者やリーダー陣が業務改善へ積極的に取り組み、定めた対策を一般社員に落とし込んでいくという方法です。その一方、ボトムアップ式は現場主体で取り組む業務改善のことを指します。現場から提案したカイゼン内容に対して経営者やリーダー陣が検討し、有効性と妥当性を感じれば実施するという方法です。

トヨタ式カイゼン活動の特徴は、ボトムアップ式での問題解決です。経営陣の指示で動くのではなく、現場の社員は皆で知恵を出し合い、自ら作業効率の向上を図ってカイゼン活動を実施していきます。

つまり、単純な「指示待ち」の状態から「自ら動き出す」という状態に変革することが最も重要なポイントです。このような「現場主体」の方式は社員のモチベーション・当事者意識向上にもつながるとされています。

# トヨタで徹底される「5why」

トヨタで徹底される「5why」

- 「5why」とは、「なぜ？」を5回問うこと。
- 5回の「なぜ」を自問自答することで、事象の因果関係や、真の原因を追究できる。

なぜ「5why」がいるのか？

- 問いを、5回繰り返す目的は、「真因」にたどり着くため。
- ファクトベースの思考こそが、真の原因にたどり着くことができる。

「5why」では、こう考える

- 問いを繰り返すかどうかで、解決方法がまったく変わってくる。

「5why」は実践できるのか？

- 実用できるようになるためには、普段からフレームワークで考える習慣をつけること。
- 「なぜ？」と自問自答を掘り下げること、自分起因ですべてを考えられる。

# 特別支援教育の目的って？！

特別支援教育の主な目的は以下の通りです：

1. **個々のニーズに応じた教育の提供:** 障害や特性に応じた柔軟な教育を行う。
2. **社会参加の支援:** 子どもたちが将来的に自立し、社会で役割を果たせるようになる。
3. **包摂（インクルージョン）の促進:** 障害のある子どもとない子どもが共に学び合える環境を作る。

特別支援教育は、障害を持つ子どもたちが社会で可能性を最大限に発揮できるよう支える重要な取り組みとして、現在も進化を続けています。

ChatGPTに聞いてみました

プロンプト：特別支援教育という考え方はいつ頃に何の目的で出来たのでしょうか？

## 1. 19世紀：初期の特別教育

- **起源:** 特別支援教育のルーツは19世紀のヨーロッパにあります。この時期、視覚障害者や聴覚障害者のための専門学校が設立されました。
  - 例えば、フランスでは盲学校（ルイ・ブライユが点字を開発）や聾学校（シャルル・ミシェル・ド・レペが設立）などが代表的です。
- **目的:** 障害を持つ子どもたちが社会で自立できるよう、読み書きや職業スキルを教えることを目的としました。

## 2. 20世紀前半：医学モデルの影響

- **発展:** 医学の発展に伴い、障害は「治療」すべき問題として認識されるようになり、特別教育は医療的な支援と密接に結びつきました。
- **目的:** 障害の種類に応じて分類し、個別の支援を提供することで、子どもたちの「欠損」を補うことが目指されました。
- **課題:** この時期は、主に「分離教育」が主流で、障害のある子どもたちは通常の学校ではなく、特別な施設で教育を受けることが一般的でした。



### 3. 1950年代以降：インクルーシブ教育への移行

- **背景:** 第二次世界大戦後、人権意識の高まりとともに、「障害を理由に分け隔てるべきではない」という考えが広まりました。
- **変化:** アメリカでは1975年の「障害児教育法（現IDEA法）」が成立し、障害のある子どもたちも通常学校に通えるようになりました。この流れは他国にも広がり、特別教育は「分離」から「統合」へと変化しました。
- **目的:** 障害のある子どもたちが社会の一員として成長できるよう、通常の教育環境で学ぶ機会を提供すること。

### 4. 21世紀：特別支援教育の確立

- **日本の場合:** 日本では2007年に「特別支援教育」が正式に導入されました。それまでの「特殊教育」から進化し、障害の有無にかかわらず、すべての子どもが適切な教育を受けられるよう支援する考え方が強調されました。
- **目的:**
  - 障害の有無に関係なく、すべての子どもが自立と社会参加を目指す。
  - 通常の学級での合理的配慮や、特別支援学級・学校での専門的な指導を充実させる。

ここまでで、改めて考えてみるキーワード

障害

自立

インクルーシブ

# 障害者って？！

「障害者」という区分けは、差別や排除のためではなく、むしろ適切な支援や配慮を提供し、すべての人が平等に生きられる社会を目指すために必要な枠組みとして生まれました。しかし、現在では「区別する」ことの弊害も議論されており、インクルーシブ社会の実現が求められています。

障害者の自立を促進するためには、個人の能力を引き出し、社会全体が柔軟に対応する仕組みを整えることが不可欠です。そのためには、自己決定権の尊重や合理的配慮、バリアフリーの実現が鍵となります。また、障害者自身が自分の可能性を信じて行動できる環境づくりが重要です。

インクルーシブという考え方は、誰もが自分らしく生きられる社会を実現し、全員が社会の一員として尊重されることを目指しています。この考え方は、差別や排除を減らし、すべての人が共に成長し、協力できる社会を作るために不可欠です。

# 障害者（私見です！）

「障害者」という区分けは、福祉的な支援を受けるための線引  
インクルーシブを実現するために、スペクトラムに線引したものの  
障害者は本人に帰属するもので、社会にはない（ICIDH）  
福祉的な支援が無い時代には障害者という単語は存在しない！  
各自のできる方法で社会参加できていたはず  
なのに現代は生きづらい！！

# 自立活動って？！

## 第1款 目標

個々の生徒が自立を目指し、障害に基づく種々の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

## 第2款 内容

- 1 健康の保持
- 2 心理的な安定
- 3 環境の把握
- 4 身体の動き
- 5 コミュニケーション

# 自立は、依存先を増やすこと

熊谷晋一郎さん（くまがやしんいちろう）

小児科医／東京大学先端科学技術研究センター・特任講師

1977年、山口県生まれ。

“障害者”というのは、「依存先が限られてしまっている人たち」のこと。健常者は何にも頼らずに自立していて、障害者はいろいろなものに頼らないと生きていけない人だと勘違いされている。けれども真実は逆で、健常者はさまざまなものに依存できていて、障害者は限られたものにしか依存できていない。依存先を増やして、一つひとつへの依存度を浅くすると、何にも依存してないかのように錯覚できます。“健常者である”というのはまさにそういうことなのです。世の中のほとんどのものが健常者向けにデザインされていて、その便利さに依存していることを忘れていくわけです。

自分のできる事を知り、出来ないことは第三者に頼める

年代別  
発達障害の  
支援



## 本当の自立とは？

### 自律スキル

自分でできることとできないことを判断できる

### ソーシャルスキル

できないことについて

他の人に援助を求める  
他の方法で解決できる

特集 「キャッチ」 夢はCGクリエイター 不登校の少女が1分間の動画に込めたメッセージ 福岡





# インクルーシブって？！

インクルーシブという考え方は、誰もが自分らしく生きられる社会を実現し、全員が社会の一員として尊重されることを目指しています。この考え方は、差別や排除を減らし、すべての人が共に成長し、協力できる社会を作るために不可欠です。

# インクルーシブ教育が変えるもの - 報道特集



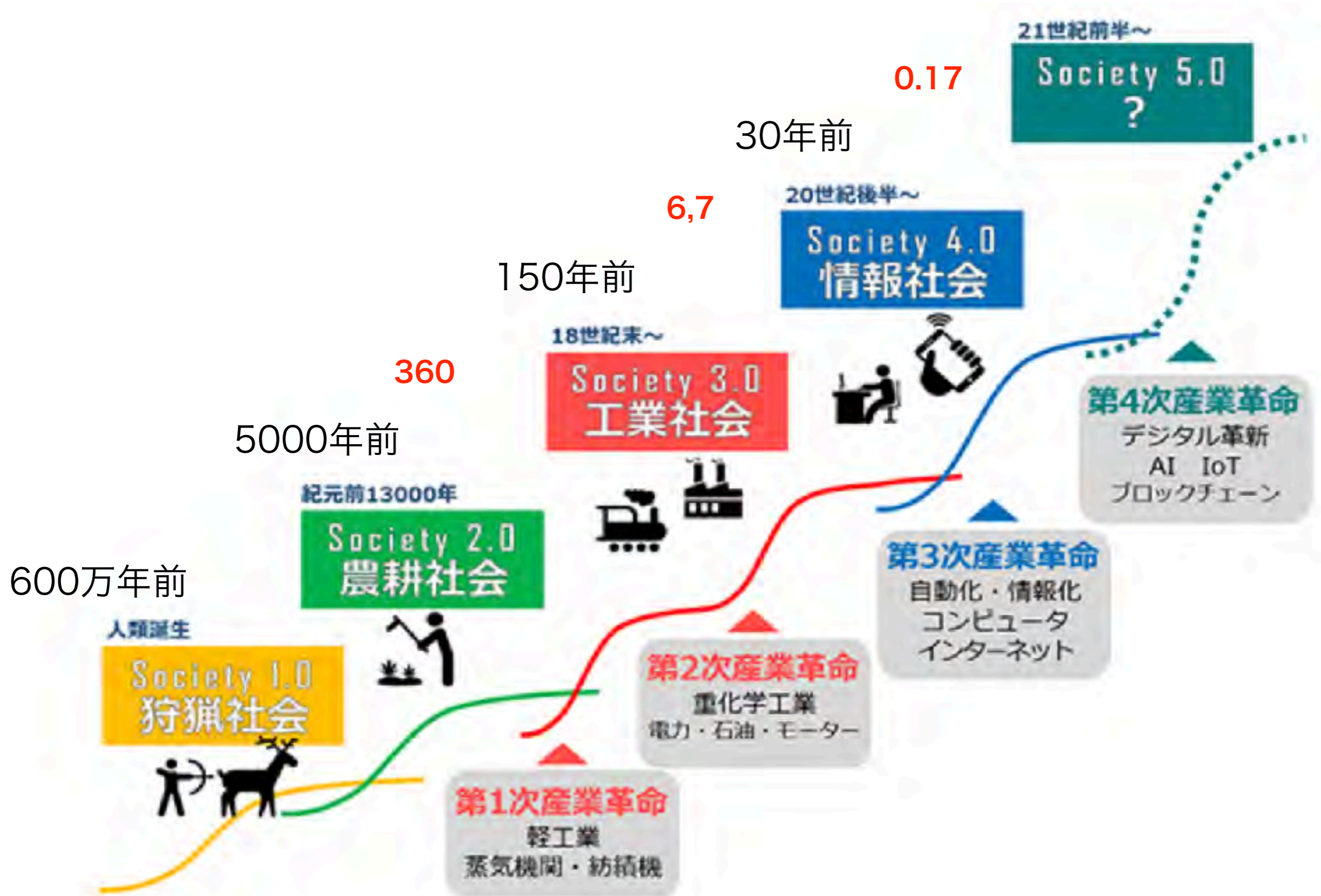
# 教育って？！

教育の目的は多岐にわたりますが、主に以下のような点が挙げられます：

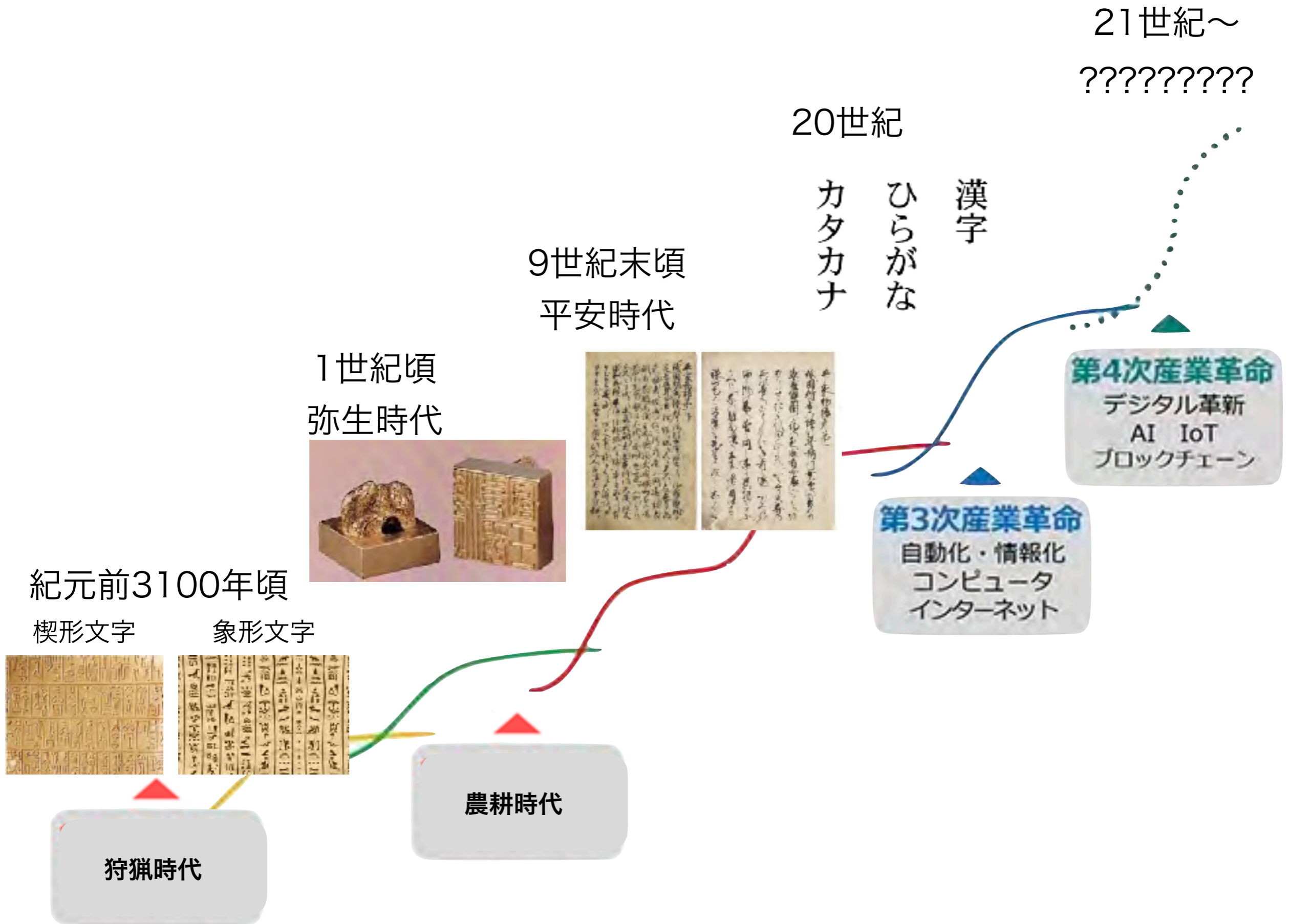
- 1.知識の伝達: 基礎的な知識やスキルを学ぶことで、個人が社会で自立し、貢献できるようにするためです。
- 2.批判的思考の育成: 問題解決能力や論理的思考を養うことで、複雑な課題に対処できる力を育てます。
- 3.社会的スキルの習得: コミュニケーション能力や協力の重要性を学び、他者と円滑に関わるためのスキルを身につけます。
- 4.文化の継承: 歴史や文化、価値観を次世代に伝えることで、社会の一員としてのアイデンティティを形成します。
- 5.個人の成長: 自己実現や自己啓発を促し、個々の潜在能力を最大限に引き出すことを目指します。

教育は、個人の成長だけでなく、社会全体の発展にも寄与する重要な役割を果たしています。

# Society5.0とは



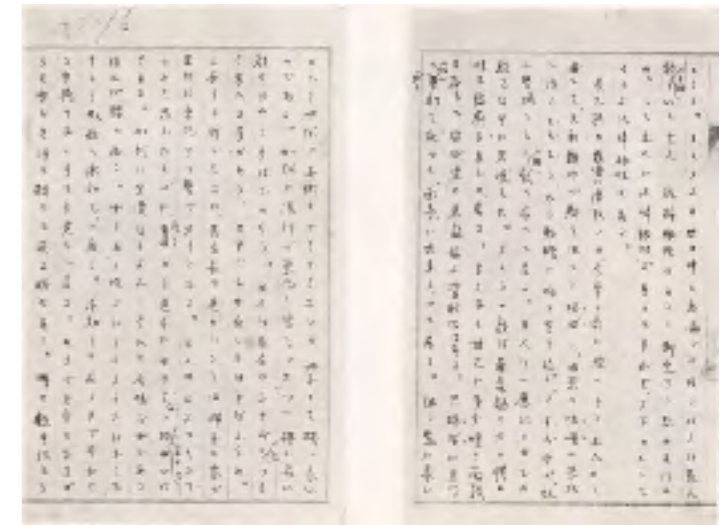
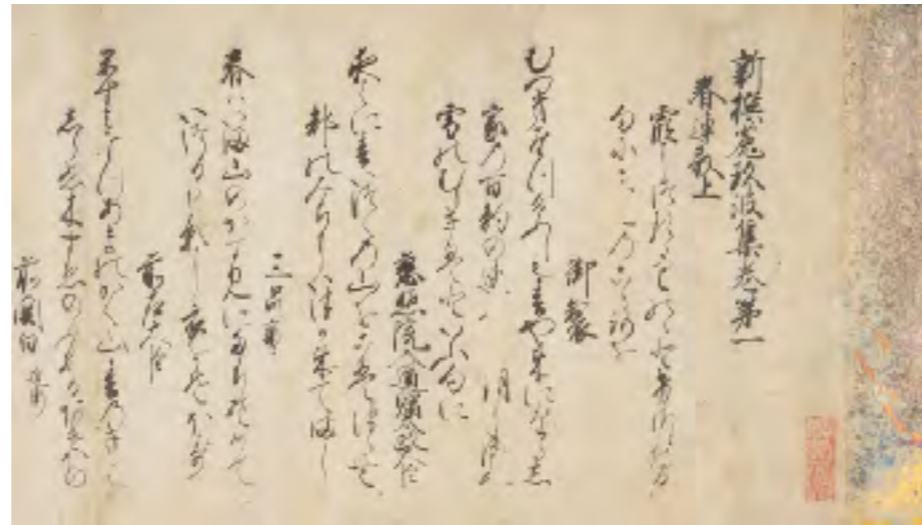
# 文字の歴史



# 文字の必要性って？！

ICT機器の無い時代（紀元前～約2000年まで）

ユビキタス（時間と場所を超えて想いを伝える重要なツール）



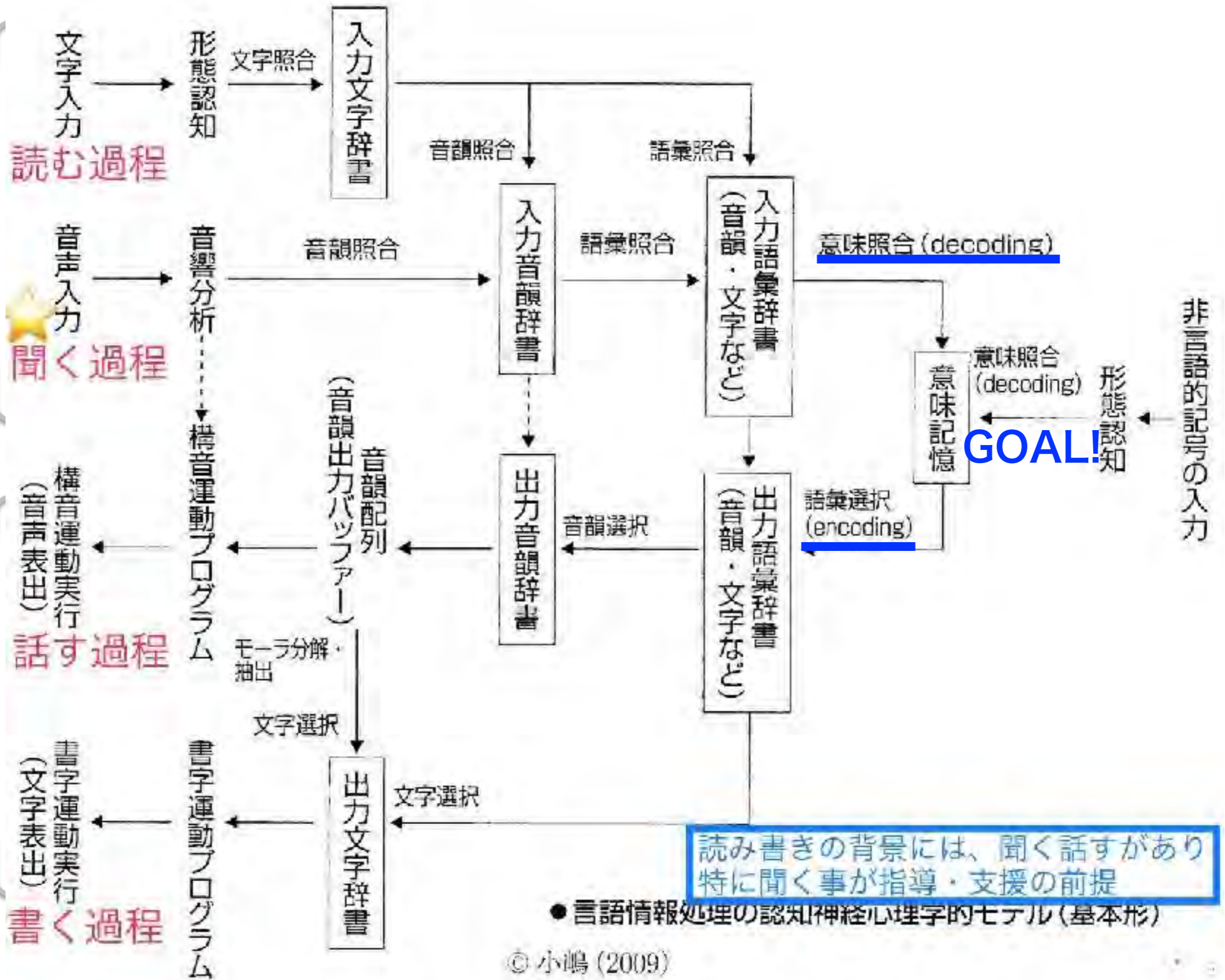
## Society 5.0時代

マルチメディア（動画・画像・音声・・・）



# 読み書きが苦手でも学習はできる

Input  
する手段



学びは苦行ではないはず！！  
何のために学ぶ？！



番組小学校

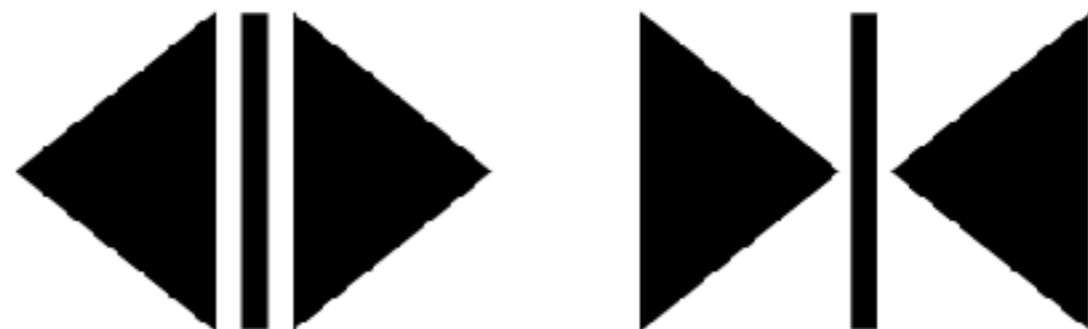
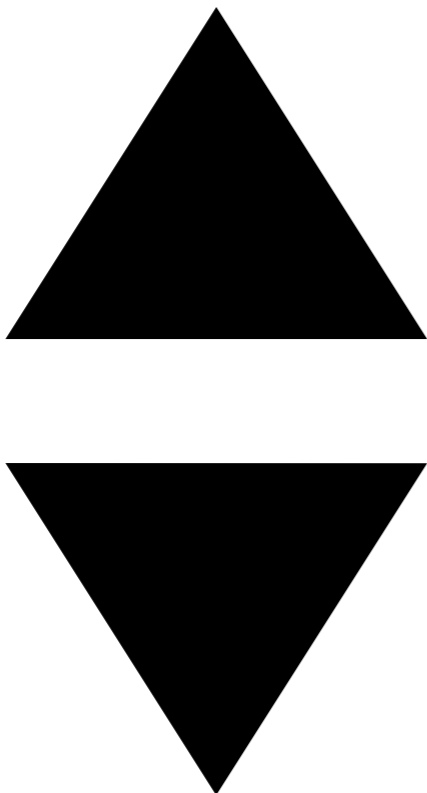
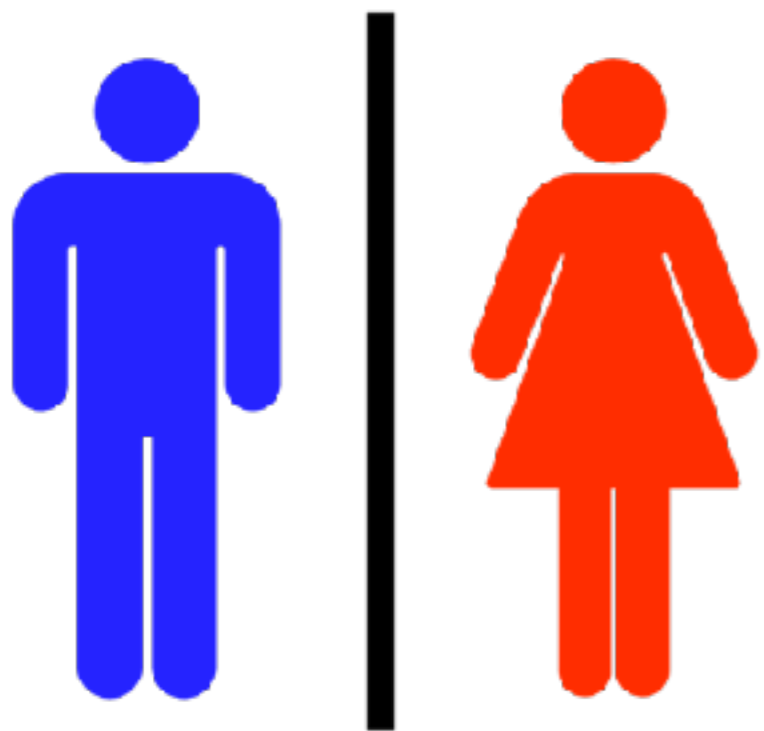
寺子屋

Society 2.0のまま  
座ってなあかん？！  
同じ事出来なあかん？！



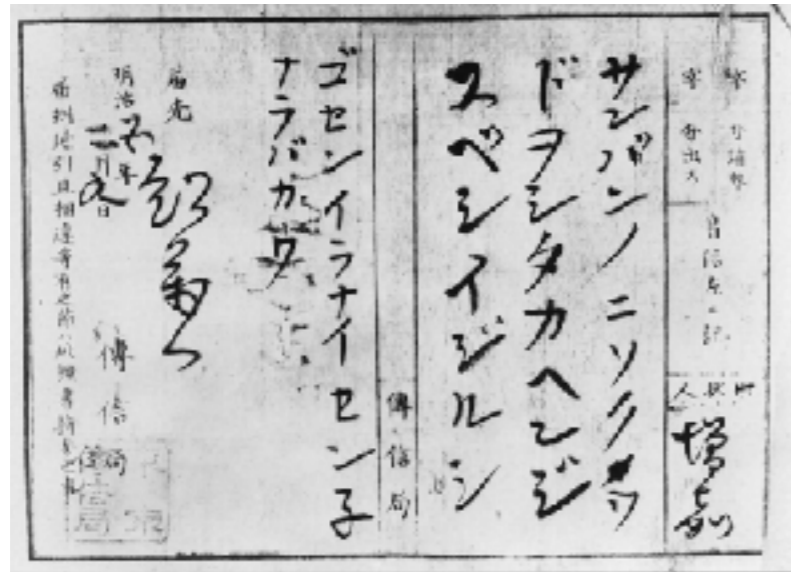


# シンボルの理解は自立には重要





# 電報

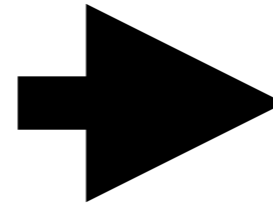


午後2時以降に申し込むと翌日午前8時以降に届きます。

# スマホ



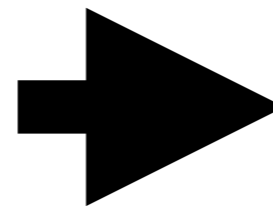
数秒



# ゲーム攻略本



# ゲーム攻略動画



手紙



メール・SNS …



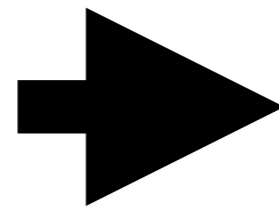
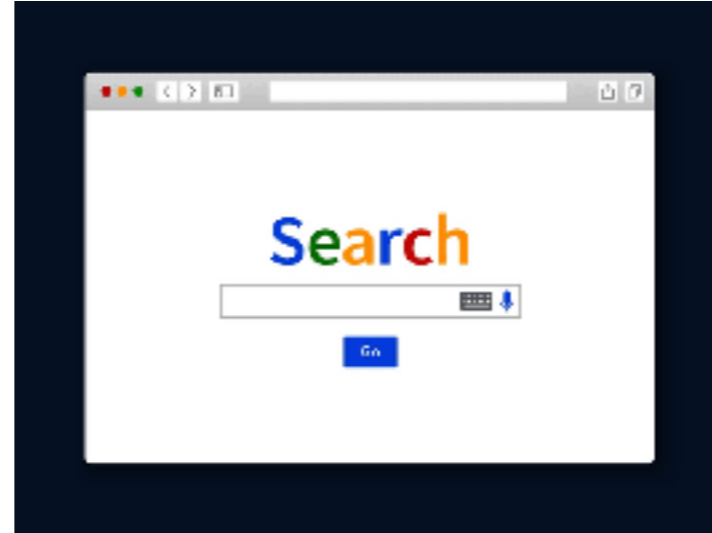
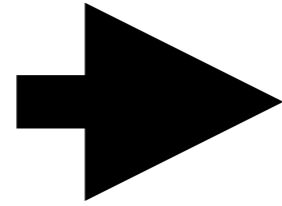
新聞



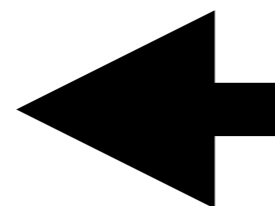
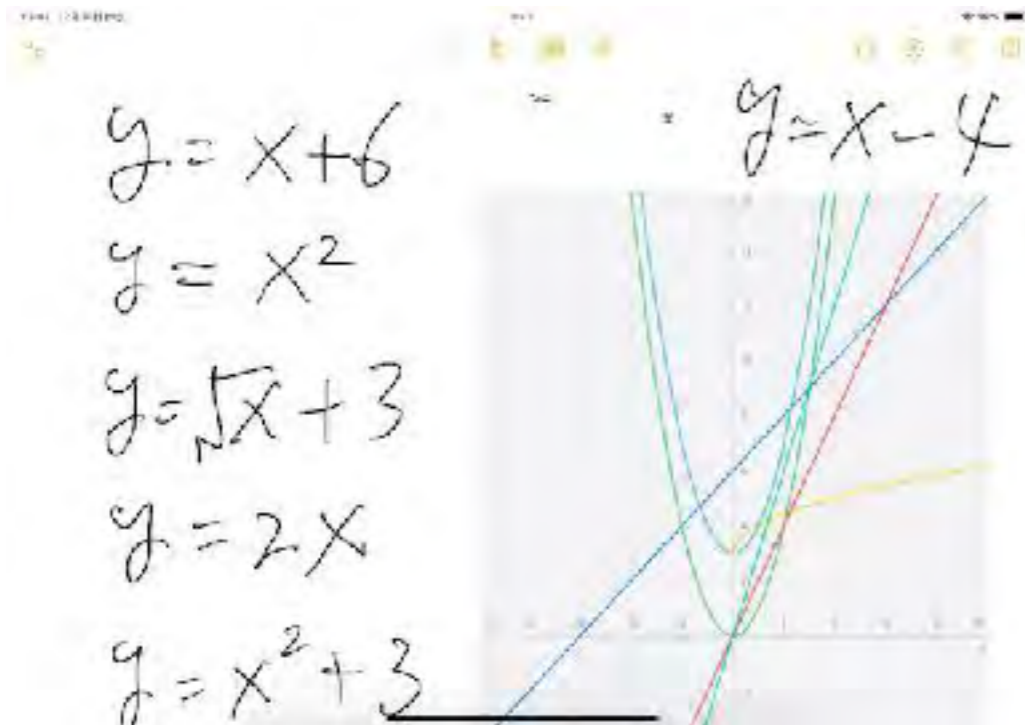
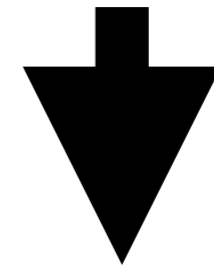
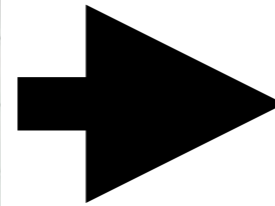
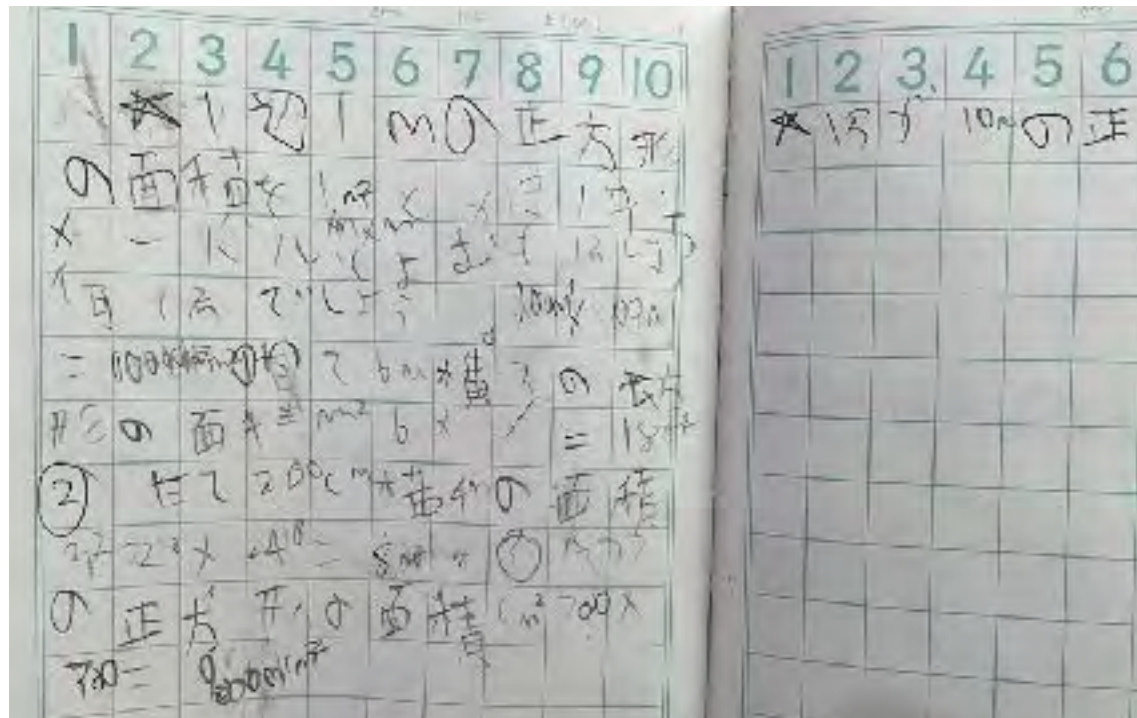
ネット



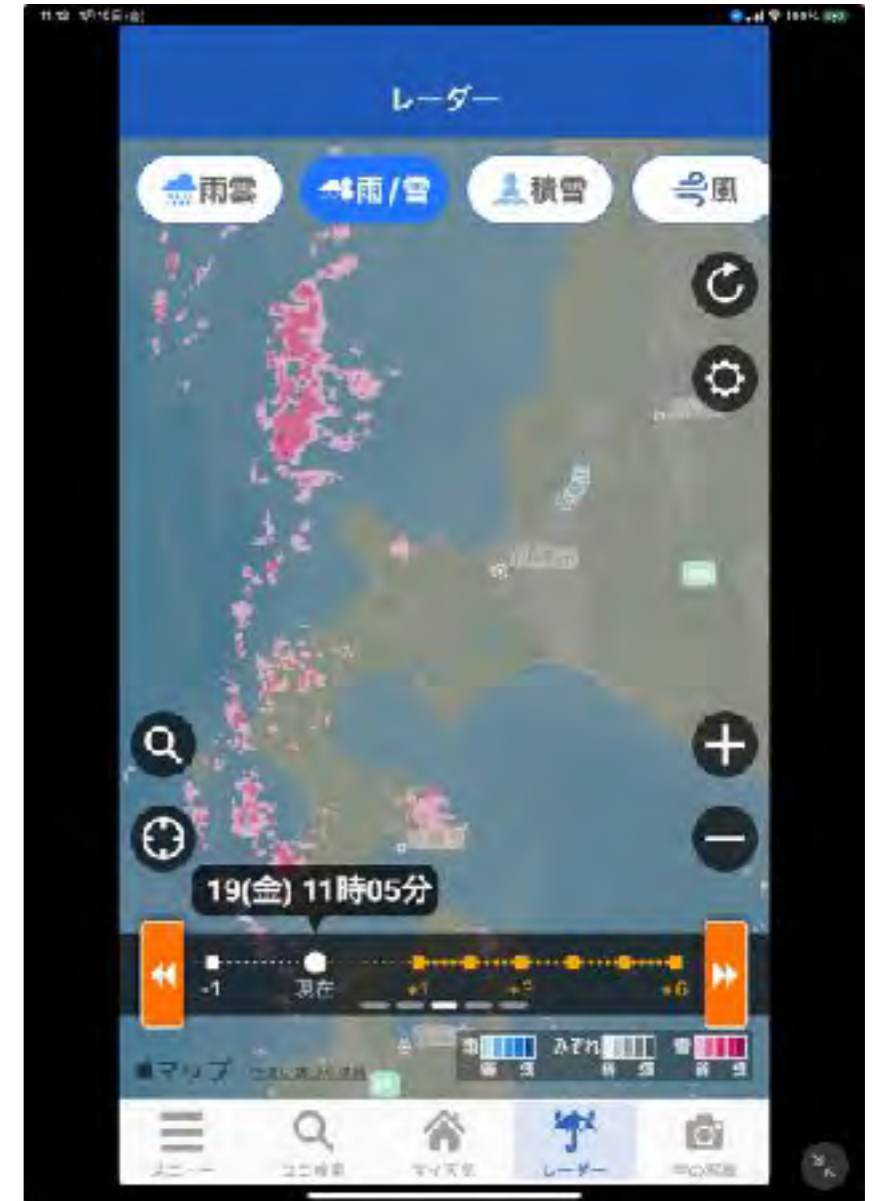
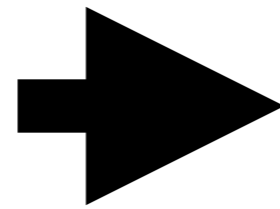
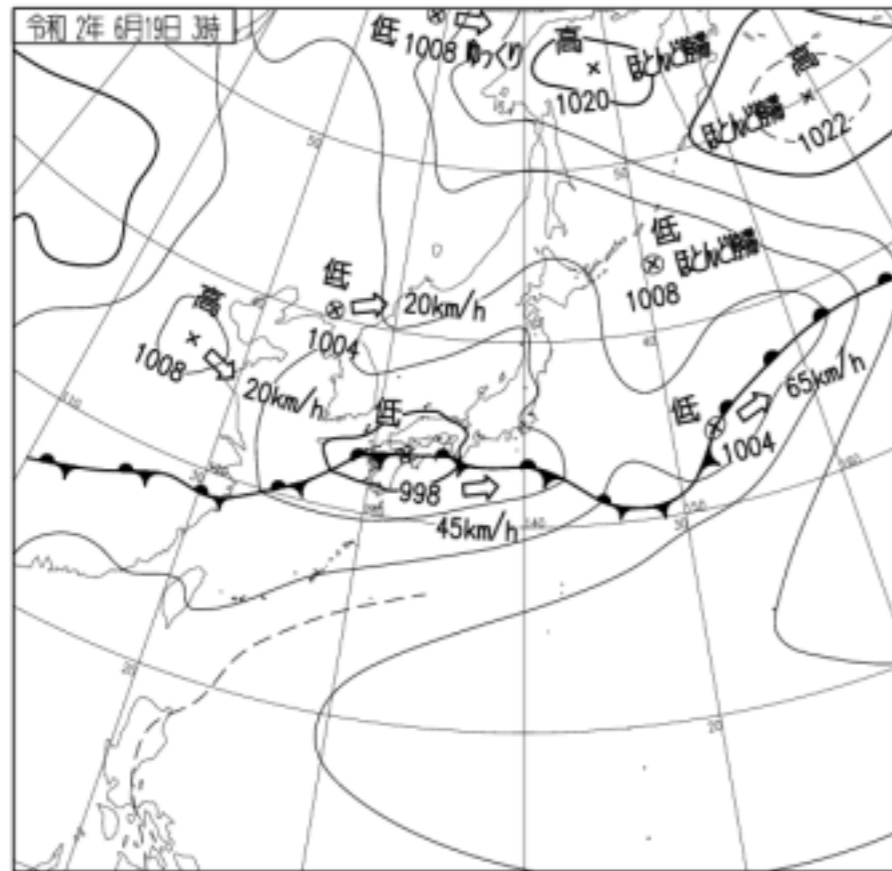
# 国語



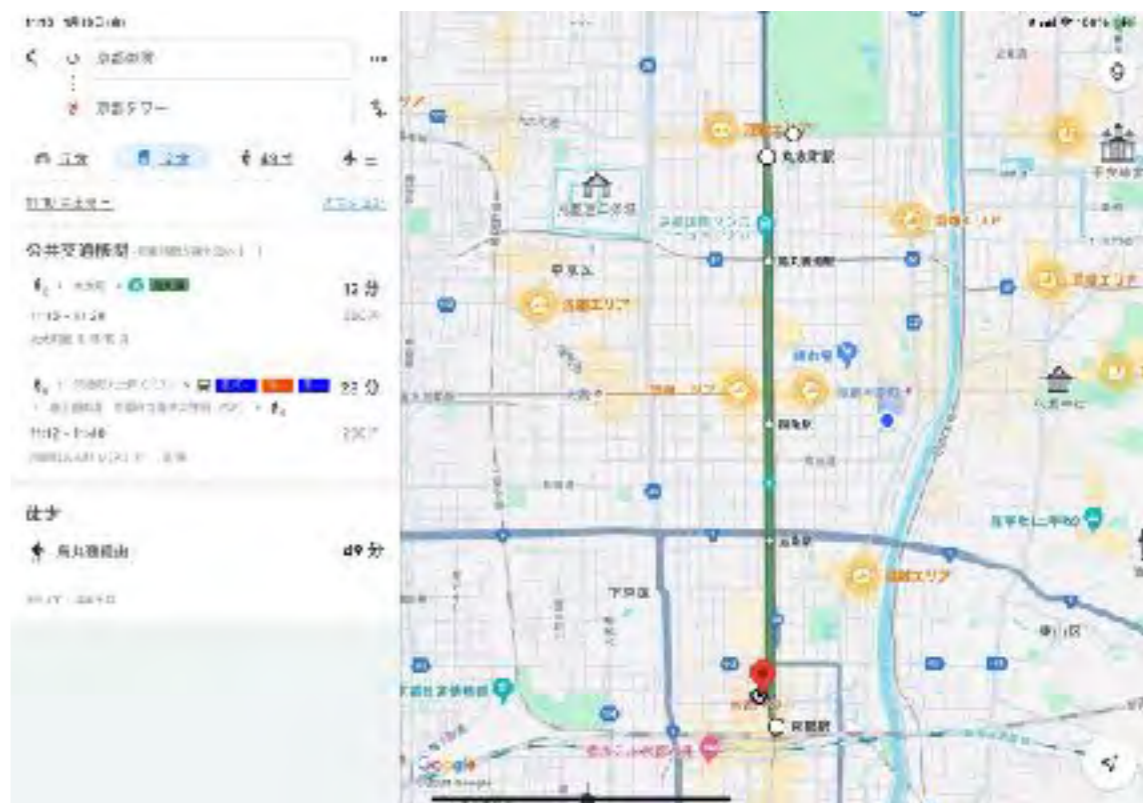
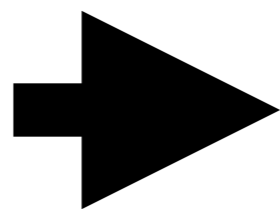
# 算数



# 理科

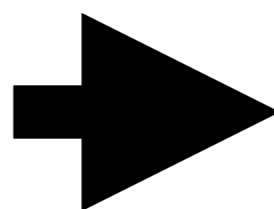


# 社会

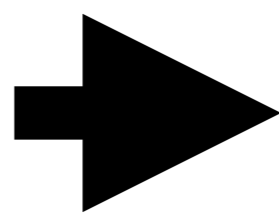
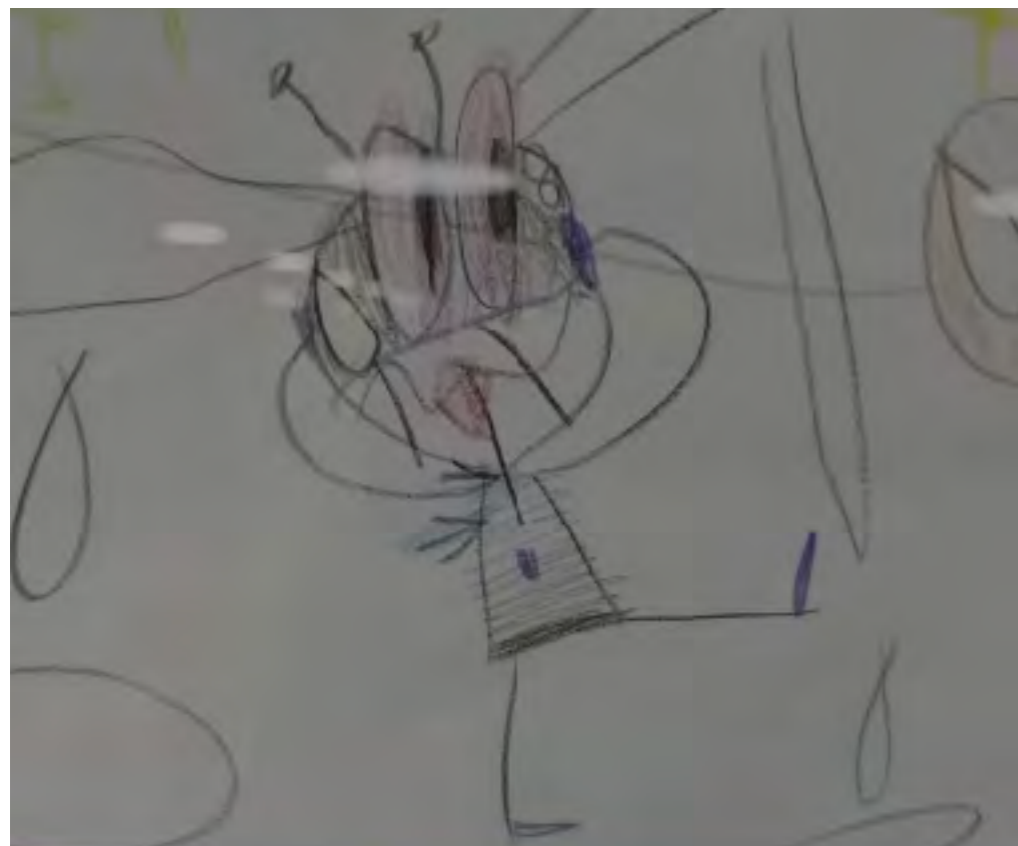




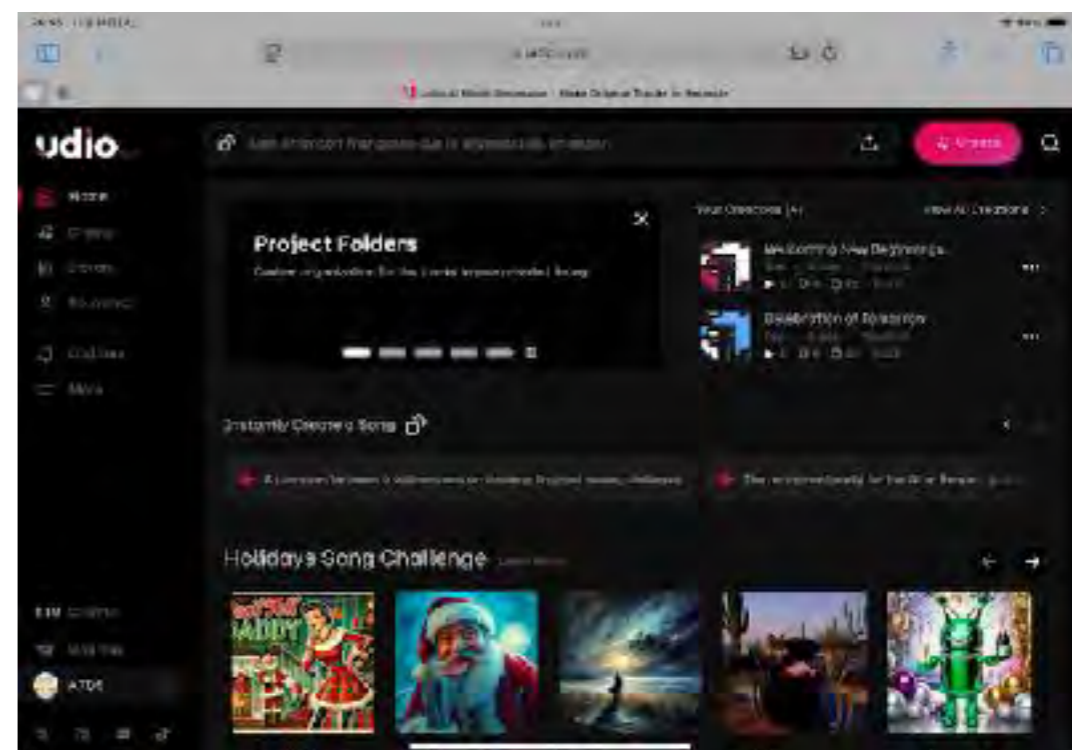
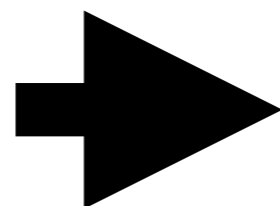
# 英語



図工



# 音樂



まとめ

# 学びの源泉

楽しい！！ わくわく！！ 知りたい！！

教員のさせたいことではなく



児童・生徒のしたいこと

# *Technology*

の先に何が……



周囲や環境が変わることが重要！

障がい者（障碍者）

本人に障害がある



障害者

本人の周（社会）に障壁がある

欠点のない人など存在しないが、その欠点または個性といえるものは、もしかすると障害とグラデーションのように繋がってしまいか。

障害者と健常者の境とはどこにあるのだろうか？最近、共生社会とよく耳にする。共生とは、そもそも異質なもの同士が一緒に生きられるということで、もちろん一人ひとり違うのであるから、そういう意味でなら共生は必然である。しかし、共生の中には優れた者、強い者が弱者と一緒に包含して暮らせることを指してはいないだろうか。確かにそういう面は私も否定しない。しかし、見方を大きく変えてみると誰もがほとんど障害者かもしれないのである。わざわざ共生社会と言うことによって差別や区別を生んではしまいか？隣人は皆、同胞であるかも。



みんな遅かれ早かれ、出来なくなりますよ！

年をとると...

見えなくなる（読めなくなる）  
聞こえにくくなる  
覚えられなくなる（忘れやすい）  
歩きにくくなる（歩けなくない）  
手が震える（細かい作業が困難）  
書くことが困難になる  
食べにくくなる  
話しにくくなる

→ルーペ・拡大鏡  
→補聴器・スピーカー  
→メモ・リマインダー  
→車椅子・車  
→誰かにやってもらう  
→キーボード・スマホ

代替手段を知っているから自己解決  
出来るんですよ！！

...

代替手段が必要になるんですよ！！

そのひとつがICTの活用です

児童生徒は出来なくて困っているんですよ。

子どもたちの困りを我が事として考えてください

まだ、頑張らせますか??

努力すれば出来るようになりますか??

別の方法を知れば自立出来るかも...

子どもたちには12年間の学びの全てです